



スポンサー反応と国民・視聴者の反応等 総務省への報告資料②

2025年5月30日（広報資料）



【目次】

1)国民視聴者・スポンサー等の反応や評価

(スポンサー)

- 1.スポンサー各社の反応・評価 … P 3

(視聴者)

2. 番組審議会委員からの意見 … P 7
3. 視聴者の声（入電・HP投稿） … P 9

(国民)

4. FNN世論調査 … P 1 7

2)取引先や取材先との間に見られた悪しき慣習を一掃することについて

関係者に丁寧に説明・国民視聴者の理解を得られるための取り組み

5. 芸能事務所への説明 … P 1 9
6. 検証番組について … P 2 1

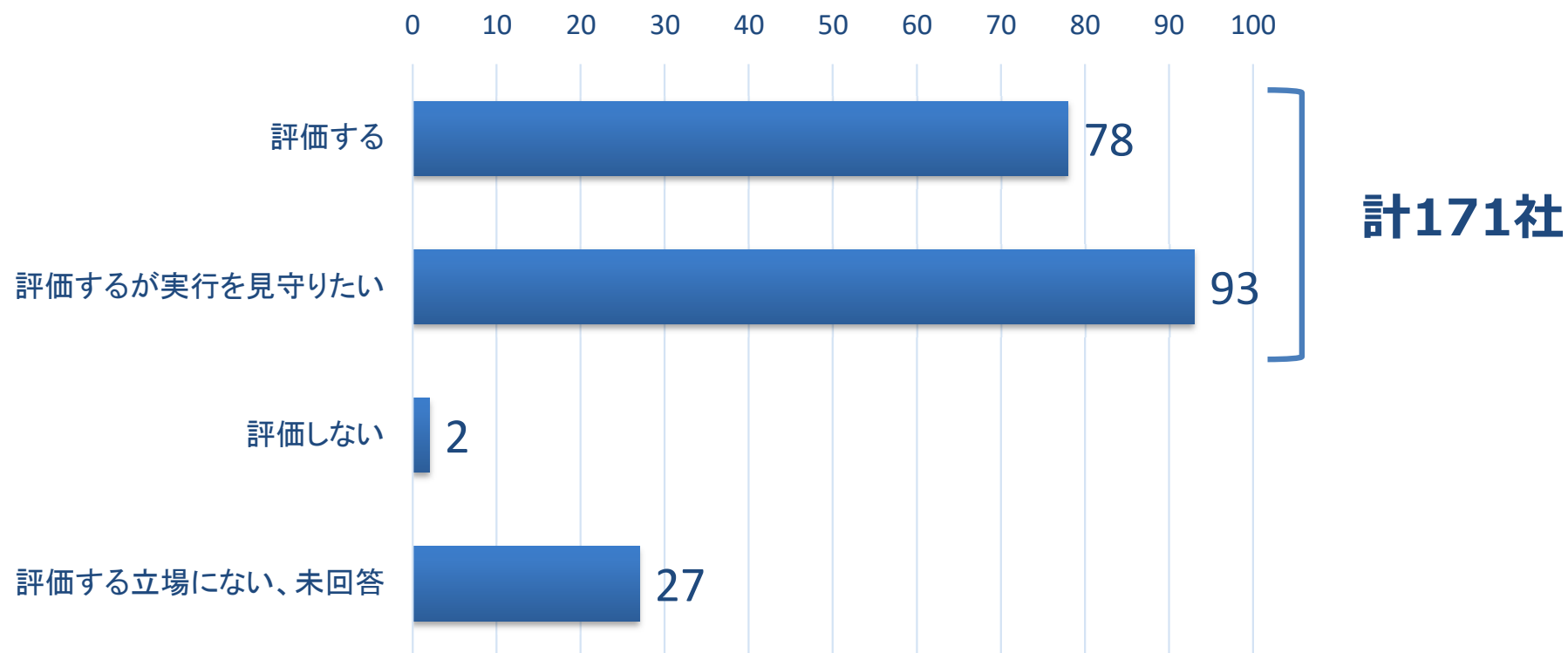
1. スポンサー各社の反応・評価

1. スポンサーからのご意見 (5月26日現在)

スポンサーの皆様との日々の対話の中で、①「4/30に総務省に報告した「8つの強化策」についての評価」及び、②「CM出稿の検討状況」の2テーマについて頂いたご意見を、当方で、それぞれ4段階に分類いたしました。（対象は当社取引先200社）

<①4/30に総務省に報告した「8つの強化策」についての評価>

当社の取り組みを評価するとする企業は**171社**にのぼり、そのうち93社は実行状況を見守りたいとし、一方で評価しないとする企業は**2社**にとどまりました。



<「8つの強化策」についてスポンサーの評価> (5月26日現在)

「評価する」としたスポンサーコメント例:

- ・「『8つの強化策』が実現できれば非常に良い会社に生まれ変わると思うので期待している。」
- ・「具体的な対策が記載されており、**再生・改革への本気度**が感じられる。」
- ・「要因に対して**短い期間にもかかわらず迅速に網羅的に対策を立てられている**ように思います。」
- ・「**再生・改革案は支持できる**。フジテレビだけでなく、我々も時代と共に変革しないとイケない事は沢山ある。業界全体の改革を牽引して欲しい。」
- ・「内容は評価しても良い。**ここまで徹底的にコンプライアンス、ガバナンス、に配慮できているかと言われると弊社でも難しいくらい**のものだ。これを、どうやって一般の人にわかってもらうかが課題と思う。」
- ・「**しっかりと改革に向けて取り組んでいる**という印象を受けている。」
- ・「『8つの強化策』は**再発防止への強い意志を感じている**。今回のような大規模な改革が「視聴者に真摯に向き合う姿勢」として、今後の信頼回復につながることを願っている。」

「評価するが実行を見守りたい」としたスポンサーコメント例:

- ・「御社の取り組みに対する総務省の評価や改革案への支持の有無が明確になることで、広告出稿再開の判断がしやすくなると感じている。」
- ・「4/30の総務省向け報告書及び人権尊重・コンプライアンスの取り組みの進捗に関する資料は**非常に高く評価ができる**。株主総会を見届けたい。」
- ・「第三者委員会の報告を受けた「再生、改革案」が提出されたことで、フジテレビの取り組みが**一歩進んだものと捉えています**。今後、今回の「再生・改革案」を**スピード感をもって実行に移し、いかに透明性をもって改革に取り組んでいけるかが大事な点**でもあり、現段階での評価は差し控えさせていただきます。」
- ・「再生・改革に向け動いていることは強く感じたが、世の中にあまり浸透していない印象。**浸透してくればそれも再開のきっかけの一つ**になりうる。」
- ・「内容は評価。かなり厳格な水準と思われる。あとは、実行、継続、そして、視聴者に変わったことをどれだけ伝えられるかに期待したい。」

「評価しない」としたスポンサーコメント例:

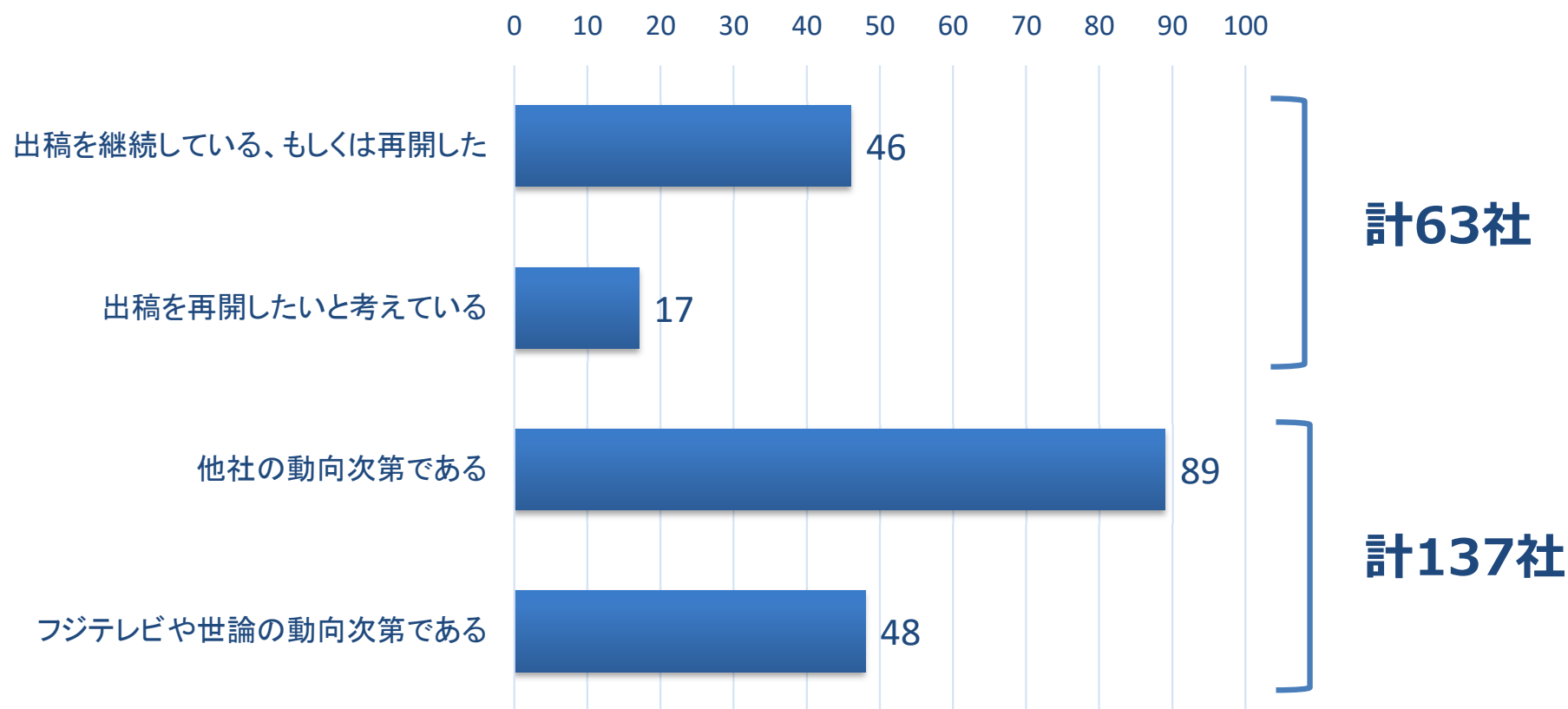
- ・「総務大臣会見のコメントを見たものの、まだ終わったと思っていない。再生に向けた動きと世の中の反応はもちろんのこと、**事案に関わった関係者の処分**などフジテレビの動きを注視している。」
- ・「**信頼回復の道筋がまだまだ見えてこない**。」

1.スポンサーからのご意見 (5月26日現在)

<②CM出稿の検討状況>

出稿を継続中・再開済または再開意向の企業は**63社**である一方、他社やフジテレビ・世論の動向を見て判断する企業は**137社**に上りました。

その多くが「他社の動向次第」と答えていることがわかります。



2. 番組審議会委員からの意見

第547回 フジテレビ番組審議会 (2025年5月14日に開催)

【出席者】 委員長：但木敬一氏 副委員長：岡室美奈子氏
委員：井上由美子氏、小山薫堂氏、最相葉月氏、齋藤 孝氏、三浦瑠麗氏、舞の海秀平氏（8名）
フジテレビ：清水社長、大野取締役ら（26名）

フジテレビの再生・改革に向けた取り組みの進捗状況について、4月30日に 発表し総務省に提出した「フジテレビの再生・改革に向けた8つの具体的強化策と 進捗状況」をもとに、再生・改革プロジェクト副本部長の大野取締役が報告し、委員から意見ならびに質疑が行われた。

【委員からの意見・質問】

- ◇具体的な改革案でとても安心した。先月のものに比べてとても説得力のある良い案だと感じた。
- ◇人権に関わるころはかなり完璧に近い形で、これが実際に運用されればかなりの理想的な改革ができるのではないと思うが、ガバナンスの強化とは、経営理念の浸透を指すのか、クリエイターの意見をより集合していく新しい仕組みを考えているのか。

【会社側より回答】

- ◆日々のガバナンスは、今回のような問題があるとコンプライアンス強化のような防衛的なものを中心にがちだが、人的資本経営を経営の尺度として入れるよう、敢えてサステナビリティ経営委員会としている。
- ◆人的資本経営にしっかりと会社として取り組むことが、組織の健全性、心理的安全性を高め、従業員のモチベーションアップや、クリエイティビティの強化につながる。

【委員からの意見・質問】

- ◇「『楽しくなければテレビじゃない』からの脱却、原点に立ち返ります」、ではどこへ行くのかがまだ分からない。放送・ネット融合の時代に社会の公器というだけで足りるのか。新たな価値観の創出を、株主は問うてくる。

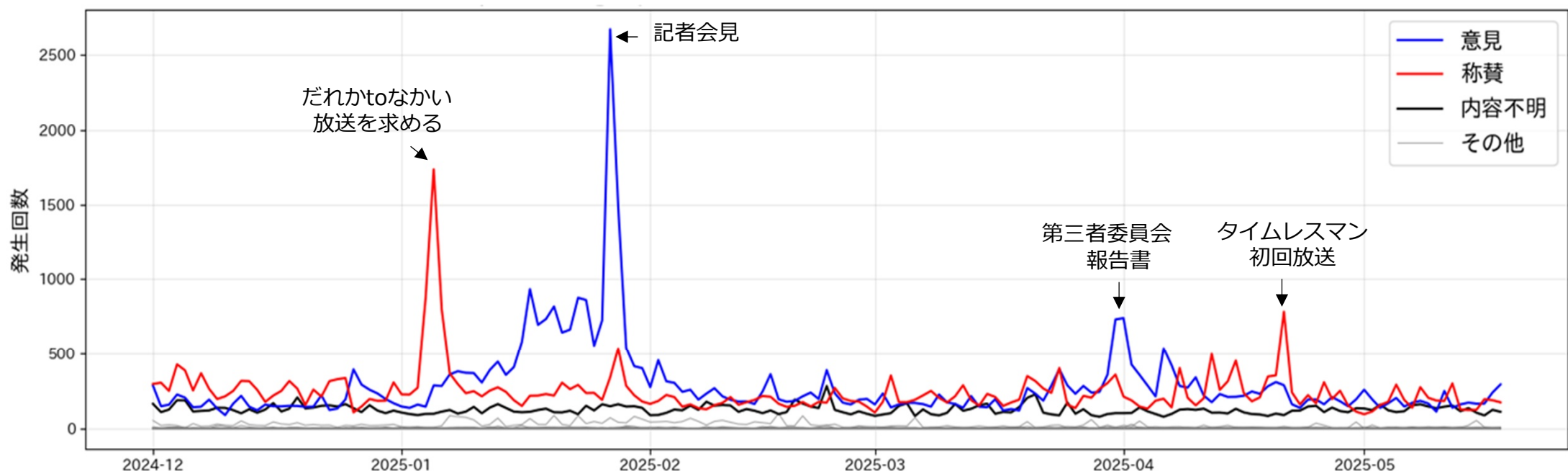
【会社側より回答】

- ◆社会の公器として、人々の暮らしに意味をもたらすものを届けていきたいと考えている。企業理念の再定義における社員の対話と議論の中で、心の中に共通しているものが言語化されると思っている。

3. 視聴者の声(入電・HP投稿)

視聴者の反応は、4月下旬から『平時の状況』に戻りつつあります。

* 入電およびHP投稿による視聴者反応をオペレーターが手動分類した種別推移 期間：2024年12月1日～2025年5月18日

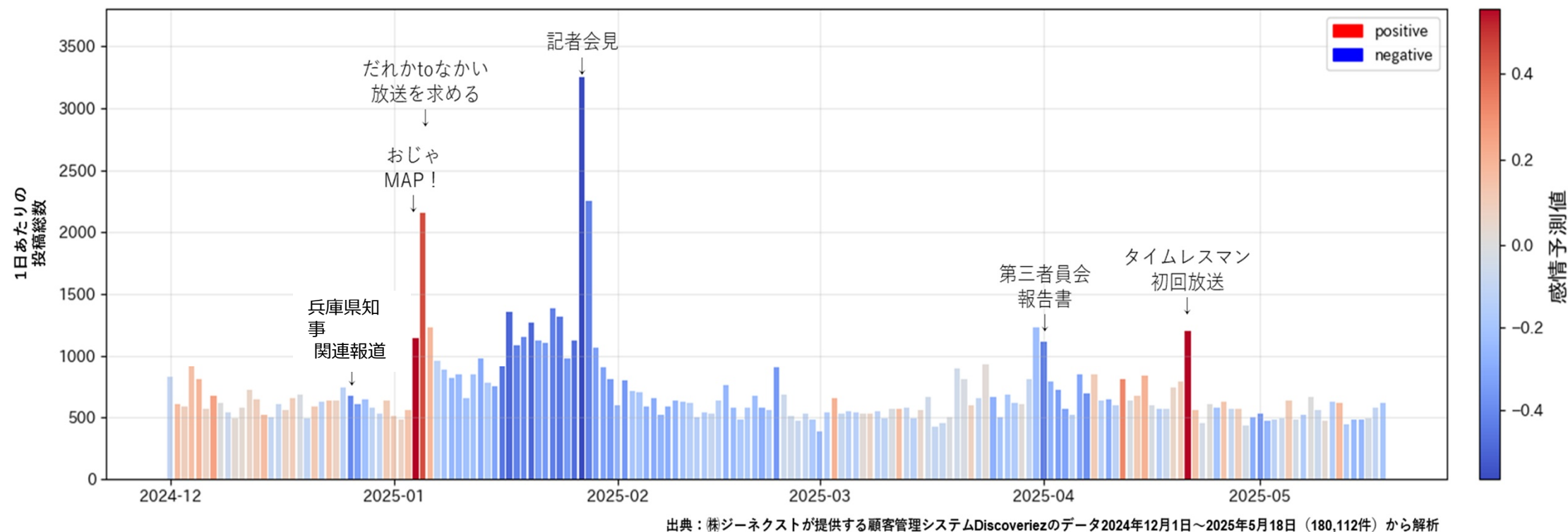


出典：(株)ジーネクストが提供する顧客管理システムDiscoveriezのデータ2024年12月1日～2025年5月18日（180,112件）から解析

- ・ 12月初旬はFNS歌謡祭を始め、ポジティブな反応（称賛）がネガティブな反応（意見）を上回っていました。
- ・ 12月下旬、中居氏の週刊誌報道を受け、ネガティブな反応が増加。
1月初旬、1/12放送予定だった「だれかtoなかいい」の放送を求めるポジティブな反応が増加しましたが、その後1/17、27のフジテレビの会見に対するネガティブな反応が急増しました。
- ・ 3/31第三者委員会の報告書が発表され、再びネガティブな反応が増加しました。その後は4月改編の新番組を応援するポジティブな反応が増え、ネガティブな反応を上回る日が増えていきます。
- ・ 4月下旬からは、12月の週刊誌報道の前の状況に戻りつつあります。

全18万件を感情分析した結果、『ポジティブな内容』が増えつつあります。

* 入電およびHP投稿による視聴者反応件数と感情指数を色付け期間：2024年12月1日～2025年5月18日（全18万件）



- ・ 視聴者の反応全件（テキストデータ）を、大規模言語モデル・アルゴリズム（LINE DistilBERT（感情分析））で分析
- ・ 感情指数は、数値が+1に近いほど肯定的で-1に近いほど否定的なムード（情調）を示す
- ・ 日別の感情指数は、その日の全反応の平均値

中居氏に関連する入電やHP投稿数も減少

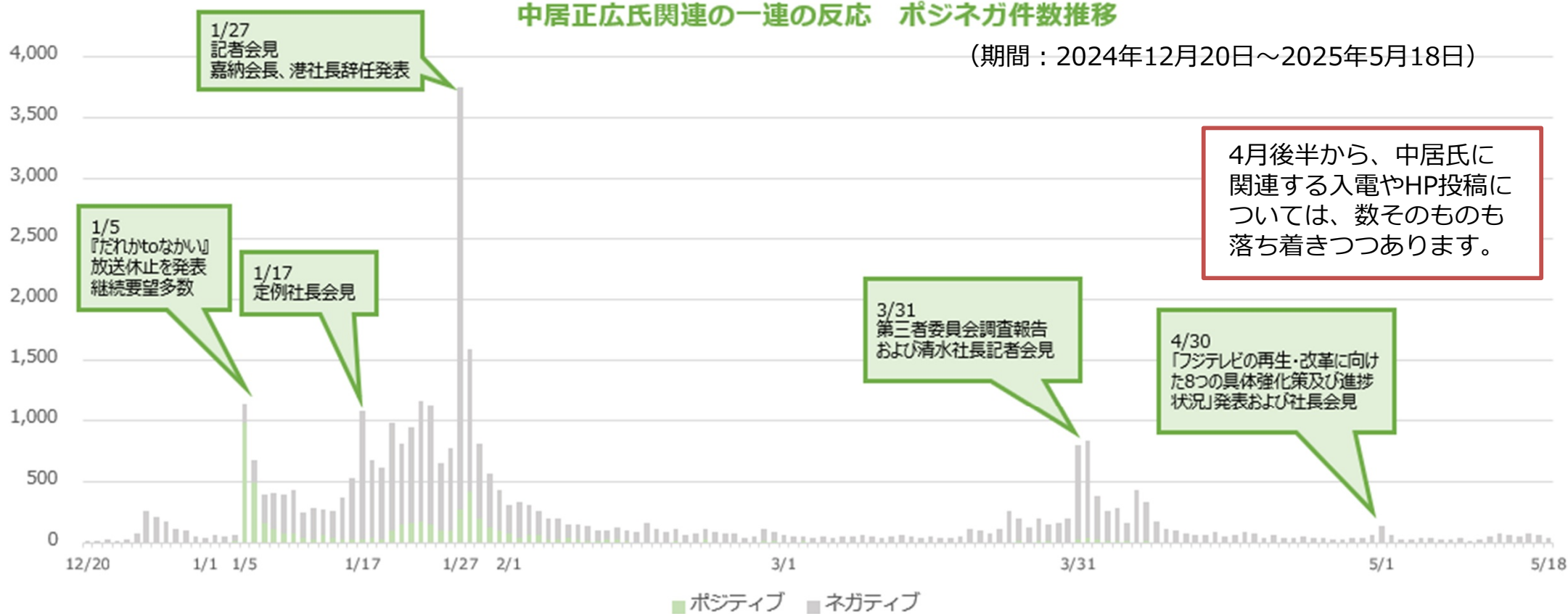
入電およびHP投稿のうち、中居氏に関する一連の反応の日別推移となります。

累計反応総数 3万4,700件（○ポジティブ反応 5,727件／●ネガティブ反応 28,064件

（※うち「総務省/BPO/スポンサーに伝える」と言及した反応 279件）

中居正広氏関連の一連の反応 ポジネガ件数推移

（期間：2024年12月20日～2025年5月18日）



4/30(水) 「フジテレビの再生・改革に向けた8つの具体強化策及び進捗状況」発表および社長会見

● 発表された再生・改革についてのリリースを見ました。“楽しくなければテレビじゃない”からの脱却で、番組制作体制も大きく変わるのでですね。改革への強い意志と覚悟を感じました。ただ、同時にフジテレビらしさを感じる楽しい番組の雰囲気が変わってしまうのではないかと不安も、視聴者としてよぎったことも事実です。楽しい番組作りの差し障りになる悪い風土をなくすことは大切ですが、これまでの路線からの脱却を意識するがために、その良さまでなくすことは絶対にならないようお願いしたいです。どうか、今まで以上に楽しい番組、見て良かったと思える番組、心に残る番組がこれからも送り出される土壌は守ってください。今まで見ている番組の雰囲気が、組織改革と共にその良さを失ってしまうようなことがあったら、とても悲しいです。これからのフジテレビが、今まで以上に楽しい番組、素晴らしい番組を送り出す最高のテレビ局として蘇ることを、心より祈っております。(30代女性)

● フジテレビの体質についての問題ですが、現状のままだと、フジテレビは本当に反省しているのかよく分かりません。以前と全く変わらないような感じがします。時間がたち、視聴者が忘れてくれることを待っているようにしか思えないです。役員体制の一新はいいことだと思いますが、結局は、フジテレビの体質とか社員の意識が変わらなければ、何も変わりません。信頼が失墜した今だからこそ、定期的に特別番組を放送し、その中で、第三者委員会に指摘された点の改善策を社長が表明する機会を設けるべきだと思います。報道番組内でキャスター、アナウンサーが表明するだけでなく、定期的な特別番組で社長が伝えることによって、視聴者の信頼、ひいてはスポンサーの信頼が回復するのではないのでしょうか。今の形では、具体的なことがよく伝わってこないです。検討してください。(60代男性)

[参考②] 入電・HP投稿など 視聴者の声を月ごとにまとめた 『月刊 視聴者の声』(番組審議会に提出) から抜粋

● = ポジティブなご意見 ● = ネガティブなご意見

3/31(月) 第三者委員会調査報告および清水社長記者会見

● 社長会見をリアルタイムで拝見しています。本日までの短い期間で、様々なアクションプランやロードマップを作成されており、清水社長の真摯な姿勢に非常に好感を持っております。本日の第三者委員会の報告書開示を踏まえ、新体制のもと、より良い会社になれるよう頑張ってください。清水社長、頑張ってください！応援しています。(40代男性)

● 第三者委員会の報告書で明らかになった事実については、視聴者としてではなく、一人の人間として強い憤りを感じざるを得ません。社内でハラスメントが蔓延し、女性アナウンサーが接待に参加を強いられていたという状況は、放送局としての品格以前に、組織としての最低限のモラルすら欠いているとしか言いようがありません。特に「年齢・性別・容姿」を基準にした異常な会合が常態化し、権力格差の中で社員が搾取されていた事実は、貴社の管理体制が完全に破綻している証拠です。被害者が上司に相談しても「仕事や交友関係が深まる」とか「席があると思うな」と返されるなんて、まるで人権を踏みにじるのが社内ルールかのようです。編成制作局のアナウンサーを追い込んでいく構造は、貴社が自ら作り上げた恥ずべき現実ですよ。特に、関与した社員が被害者に寄り添うどころか、加害者側に立って、見舞金を渡そうとしたという姿勢にはあきれ果てました。(20代)

● 清水社長の会見を見えています。“フジテレビは変わる”として「人権尊重」を掲げていましたが、今回の問題の根底に、大物タレントに対する忖度や大物タレントが所属する芸能事務所への忖度が残っている以上、社内で人権尊重を叫んでも、実効性が疑われます。社員一人一人がコンプライアンス意識を持っても、組織として大物タレントへの忖度を優先する姿勢がある場合、社員のコンプライアンス意識なんて吹き飛びますよ。あと、本日の第三者委員会の報告を聞いていましたが、この第三者委員会の調査報告を、フジテレビだけではなく、ほかのテレビ局はどう聞いていたのでしょうか。業界全体の問題でもありますよ。(50代男性)

[参考③] 入電・HP投稿など 視聴者の声を月ごとにまとめた 『月刊 視聴者の声（番組審議会に提出）』から抜粋

1/17(金) 定例記者会見

● = ポジティブなご意見 ● = ネガティブなご意見

● 17日の『イット！』“中居正広 女性トラブル報道 フジテレビ社長が会見”を見ました。宮司アナが「調査した内容を真摯に公表してほしい」という旨のコメントが、よくぞ言ったと思いました。私もそう思います。フジテレビを信じています。関係者の皆さん、頑張ってください。(40代男性)

● 17日に行われた記者会見は、残念ながら期待外れとしか言いようがありません。再度、全ての媒体社を入れ、オープンな記者会見を行う必要があります。第三者委員会も、日弁連のガイドラインにのっとったものにするべきです。そうしなければ、さらに批判が増えますよ。火を見るより明らかです。フジテレビの幹部は、この問題の深刻さを理解なさっているのでしょうか。(70代以上男性)

1/27(月) 記者会見／嘉納社長、港社長辞任発表

● 進行を妨げる質問をする記者がいる中、今日の会見でフジテレビの誠意はよく伝わったと思います。上層部の皆さまは真摯に対応されていました。中居正広さんのことをかばう必要はないと思いますが、被害女性が元気に立ち直ることができるといいですね。一番心配なのは、社員の皆さまです。どうか、心折れることなく頑張ってください。上層部に不満もあるかと思いますが、今日のところは労っていただきたいです。フジテレビのことをずっと応援しています。頑張ってください！(60代女性)

● 記者会見での質疑応答を見ていたが、港社長や経営陣が懸命に日枝氏を守ろうとしていたのが印象的だった。被害に遭った女性のプライバシーを盾にして、重要なことには答えない……。日枝氏の質問が出ると直接答えずにはぐらかす。港社長は、前回の記者会見が失敗して申し訳なかったと言っていたが、あれは視聴者や被害女性に対してではなく、日枝氏に対する謝罪なんだろうなと思う。(回答しない)

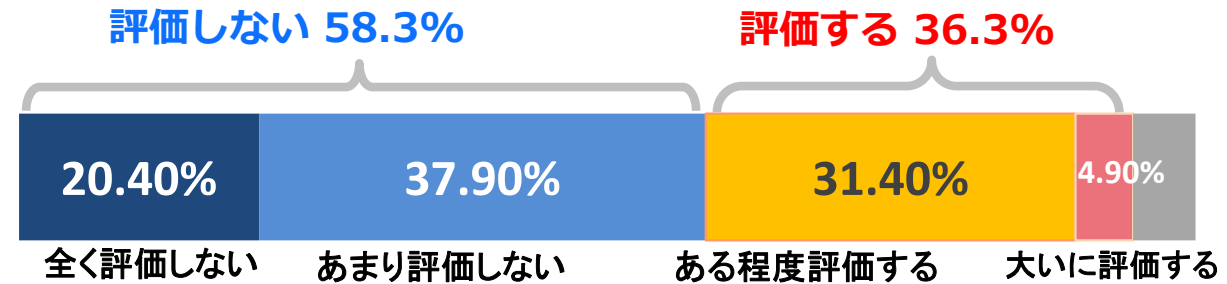
● 被害女性と第三者委員会を盾にした、全く意味のない会見でした。この後は、第三者委員会が入るから、何か報道されても、だんまりを決め込むのでしょうか。とりあえず、今日だけ頑張ろうという意思が見え見えで、不快感しか残りませんでした。(回答しない)

- ・2024年12月下旬、中居氏のトラブルに関する週刊誌報道があり、フジテレビが公式HPに発表した内容について「納得できない」、「説明責任を果たすことを求める」としたご意見が多数届きました。
- ・2025年1月17日、フジテレビの社長会見が静止画のみのクローズなものであったことについて、報道機関としての姿勢を問う声や、説明責任を果たしていないとする批判が殺到しました。また27日にオープンな形式でおこなった2度目の記者会見は、10時間を超え、2日間で5,000件を超す反応がありました。入電も多く、電話がなかなかつながらない状況になりました。オープンな形で会見を行ったことを評価する声もありましたが、事案把握後のフジテレビの対応について「被害女性のプライバシー」を理由にしたことについて批判が多く、また日枝氏が会見に出席していないことや責任を問うご意見も多く届きました。
- ・2025年3月31日、第三者委員会の報告が発表され、問題とされたトラブルが「業務の延長線上」における性暴力と認定されたことや「セクハラが蔓延していた」と評された企業風土やそのほかのハラスメント事案もあきらかとなり、フジテレビや中居氏に対する批判の声は一段と厳しいものになりました。「フジテレビはひどい」「でてくる話がひどすぎる」「女性のことを『仕事をとるための道具』としてしか見ていない。」「放送局としての品格以前に、組織としての最低限のモラルすら欠いている」など、報告書の内容が世間の想像を超えるものだったことが分かる反応が多く寄せられました。
- ・こうした状況の中で、フジテレビで働く社員やスタッフを気遣い、「頑張れ」と応援してくださるメッセージも数多く頂きました。「社員や関係者の方々が、大変な思いをされていると想像するが、毎朝、フジテレビを見てみると、それを全く感じさせない皆さんの明るく爽やかな笑顔にホッとすると同時に、応援せずにはいられない」「アナウンサーの明るい表情に感動すら覚える。」など社員らを勇気づけてくださるメッセージをいただきました。
- ・4月30日に公表した再生・改革に向けた8つの具体的強化策については、「改革への強い意志と覚悟を感じた」と評価する声も届いています。また、5月16日に発表した新経営陣については、従業員の意見を尊重した案だと期待する声も届いています。

4. FNN世論調査

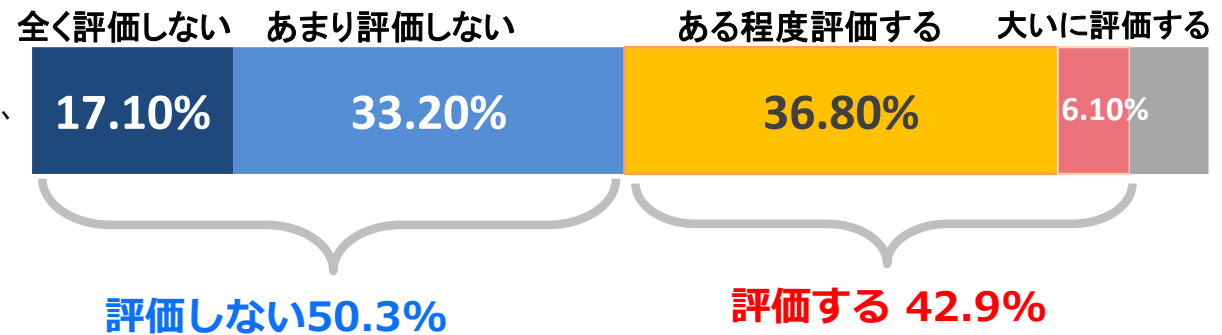
【2月24日】※ご批判 ピーク時

Q.タレントの中居正広氏と女性とのトラブルにフジテレビ社員が関わったとする週刊誌報道を巡り、会長と社長が辞任し、第三者委員会の設置を決めたフジテレビ対応について評価しますか、評価しませんか。

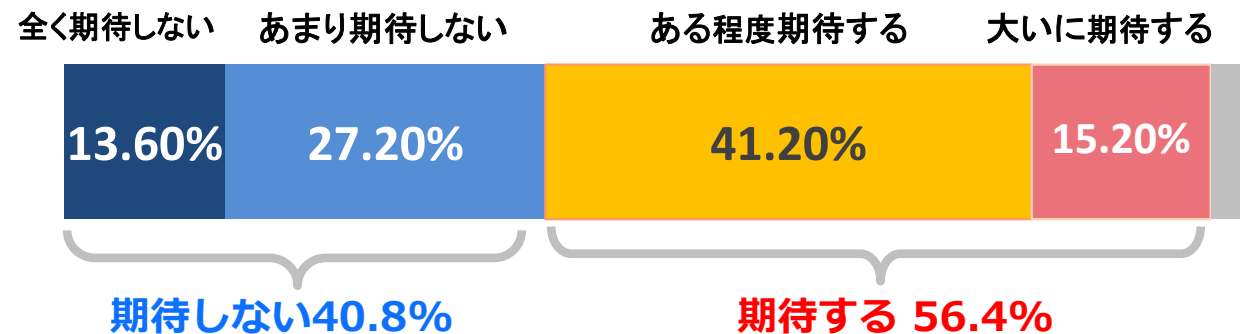


【5月19日】※4月の総務省報告後

Q.タレント・中居正広氏と女性とのトラブルに端を発した、フジテレビをめぐる問題を受け、フジテレビは、人権・コンプライアンス意識の向上・体制強化、ガバナンス改革・組織改革の具体策を総務省に報告し、再生・改革に取り組んでいます。あなたは、フジテレビの対応を評価しますか、評価しませんか。



Q.あなたは、再生・改革を進めた上での今後のフジテレビの番組や放送に期待しますか、期待しませんか。



5. 芸能事務所への説明

芸能事務所への説明・取り組み (5月25日現在)

取引先や取材相手との間に見られた「悪しき慣習を一掃」するため、丁寧に説明・国民視聴者の理解を得られれるための取り組みを求められております。取り組みの、ひとつとして、フジテレビでは3月より現在にかけて、各芸能事務所を訪問し、フジテレビが取り組む再生・改革の進捗を報告した上で、コンプライアンス順守、人権ファーストを徹底する考えをご説明しています。皆様、当社の説明を真摯に聞いて下さっています。今後も「対話」を継続し、意識の共有を目指したいと考えております。

【芸能事務所への進捗説明とお願い】

※★大手の主要な芸能事務

■フジテレビが取り組む再生・改革への姿勢を説明

3月下旬 ★A芸能事務所 社長（社長）

■3・31「再生改革に向けて」を受けてフジテレビの姿勢説明

4月 2日 ★B芸能事務所 会長・取締役（編成担当執行役員）
4月 3日 ★C芸能事務所 社長（編成担当執行役員）
4月11日 D芸能事務所 代表取締役（編成担当執行役員）
4月23日 ★E芸能事務所 社長（編成担当執行役員）

■3・31「再生改革に向けて」を受けてフジテレビの姿勢説明 みなさまにも、コンプライアンス遵守を促していきたいとお願い

4月25日 ★F芸能事務所 社長（編成担当執行役員ら）
4月30日 ★G芸能事務所 取締役・COO（幹部）
5月 2日 ★H芸能事務所 社長（編成担当執行役員）
5月 7日 ★I芸能事務所 社長（編成担当執行役員）
5月 7日 ★J芸能事務所 社長（編成担当執行役員）
5月 8日 ★K芸能事務所 常務・取締役（担当幹部）

（以下は、左記説明の上、書面も手渡し）

5月 8日 L出版社 社長（編成担当執行役員）
5月 8日 ★B芸能事務所 取締役（編成担当執行役員）
5月 9日 M出版社 編集長ほか（編成担当執行役員）
5月12日 N芸能事務所 社長（編成担当執行役員ら）
5月21日 O芸能事務所 社長（担当幹部）
5月23日 P出版社 常務（担当執行役員）
5月23日 Q芸能事務所 社長（編成担当執行役員ら）

（以下 今後の予定）

■4・30「8つの具体的強化策」を受けてフジテレビの姿勢説明 みなさまにも、コンプライアンス遵守を促していきたいとお願い

6月2日（予定） ★R芸能事務所 社長（編成担当執行役員）
6月2週目（予定） ★S芸能事務所 社長（編成担当執行役員）
6月2週目（予定） ★T芸能事務所 専務（編成担当執行役員）
6月16日（予定） U出版社 本部長（編成担当執行役員）

※さらに8社への説明日程を調整中

6. 検証番組について

検証番組について現状のご説明(5月26日現在)

検証番組については、報道局と情報制作局が一体となって取材を行い、準備を進めております。

第三者委員会の調査報告書では検証番組について「組織としての十分な検証を経た上で制作・放送されることを望む」と記載されています。またその前段として、組織としての検証について「取締役会において十分に議論を尽くし、組織として責任ある結論を出すべきである。その結論を出すのは、社長や再生・改革プロジェクトではなく、取締役会でなければならない」と記載されており、まさにその議論が取締役会でなされているところです。検証番組においてはその内容について「組織としての検証」を十分に踏まえるべきと考えております。

一連の問題が判明して以降、報道局・情報制作局からなる検証番組チームでは報道機関としての自浄能力を発揮するため、独自に取材を進めて参りました。今後、「組織としての検証」を踏まえた上で、さらなる検証を進め、取材を尽くす考えです。

なお、上記検証番組に向けて準備を進めつつ、報道局においては、2月から、シリーズ「フジテレビの反省」として、制作現場において制作担当者が議論を重ねながら、番組内で特集を組み続けて参りました。こうした積み重ねとともに、現在さらに取材を重ねながら、検証番組に向けた議論を並行して進めております。

【ご参考】報道局【フジテレビの反省】

- ① 2月17日OA 「“会見”から一カ月 フジ番組審議会で厳しい指摘相次ぐ」
- ② 2月21日OA 「視聴者センターに寄せられた2万4千件の声
声をどう活かすか 専門家『議論の成果を放送で』」
- ③ 2月24日OA 「出演者スキャンダルのBBCは不祥事にどう対応したか
元幹部が指摘するフジテレビ再生に必要なもの」
- ④ 3月 5日OA 「FNNの系列局の訴えとフジテレビの新たな対応」
- ⑤ 3月12日OA 「旧ジャニーズ事務所問題の座長
林元検事総長語る人権DDの重要性」
- ⑥ 3月19日OA 「少ない女性役員 求められるメディアの多様性
民放労連とフランスのテレビ局を取材」

⑦ 3月25日OA

【今、フジテレビをどう思いますか？ 反省と再生の現在地】

- ・ 都内などで200人超に取材した「フジテレビをどう思うか」についての声
- ・ 日本コンプライアンス推進協会の専務理事に聞く「コンプライアンスの重要性」
- ・ ガバナンスの専門家であるハーバード大学教授へのインタビュー

